

V 津波避難関連施設整備について

1 防災備蓄倉庫の整備

旭市においては、中央小学校をはじめ旧旭地区の各学校に防災備蓄倉庫が配置されていますが、東日本大震災のような大規模災害に十分対応できる規模ではありません。

そこで、東日本大震災で避難所としても利用した飯岡小学校及び三川小学校において、優先的に防災備蓄倉庫の整備を図り、新たに物資集積拠点として指定する旭文化の杜公園、移転後の飯岡中学校にも順次整備する方針です。

防災備蓄倉庫は、備蓄品に影響をあたえないよう、耐水性、耐蝕性を有する気密性の高い構造とします。



図 防災備蓄倉庫の整備

2 防災井戸または耐震性貯水槽の整備

飲料水を確保することは避難所においては非常に重要です。それぞれの避難所において、断水・停電の際にも水を供給できる防災井戸または耐震性貯水槽を整備します。

なかでも、東日本大震災で長期間避難場所として利用した海上公民館と、新たに食糧供給拠点として指定するふれあいセンターについては優先的に防災井戸を設置します。

また、井戸掘削が難しい場所では耐震性貯水槽を整備します。



図 防災井戸の配置図（海上公民館）



配置場所詳細図

3 新たな情報伝達機能（高性能スピーカ、電光掲示板等）の配置

東日本大震災の際に活用された防災行政無線などの情報伝達方法は、同時にその課題も浮き彫りになりました。旭市は、平成24年度の総務省消防庁による「住民への災害情報伝達手段の多様化実証実験」のモデル地区のひとつに選定され、海岸沿岸部における津波からの住民、観光客などの情報提供方法を検証するため、平成25年2月に高性能スピーカや電光掲示板などの多様な情報伝達手段の実証実験が行われました。

その結果、その有効性が確認されたため、平成25年4月より旭市にシステム運営が譲渡され、実用されることになりました。

また、47箇所の避難所には、情報の確実な伝達を目指して、移動系防災無線機を設置します。

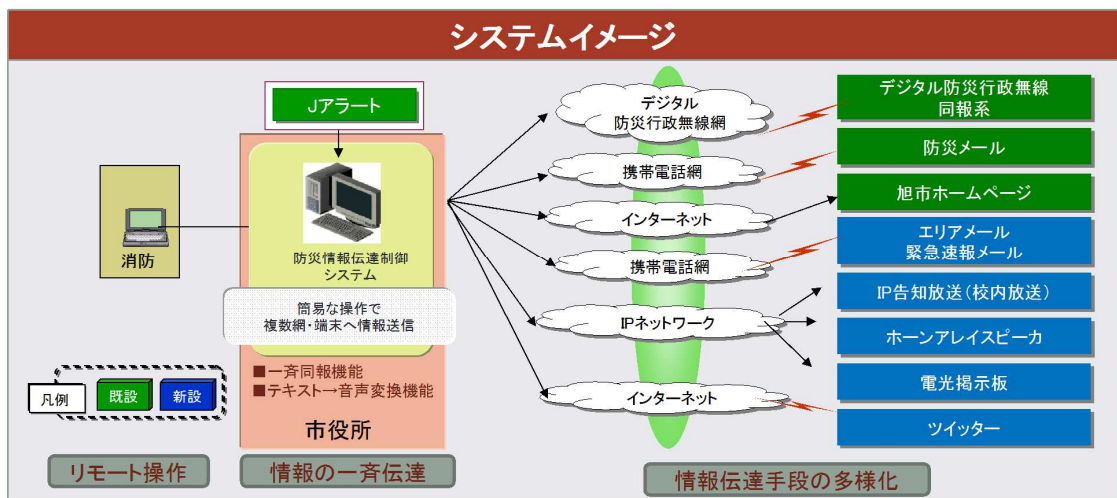


図 住民への災害情報伝達手段の多様化システムイメージ

高性能スピーカ（ホーンアレイスピーカ）及び電光掲示板は、下図の場所に設置されており、今後防災行政無線を補完するシステムとして、避難訓練などで市民への意識浸透を図ります。



図 高性能（ホーンアレイ）スピーカ及び電光掲示板設置位置

4 避難所におけるトイレ整備、停電・断水時の対応

避難所において、避難生活が長期に及ぶことも想定して、市民がストレスなく避難生活を送るための施設整備が必要と考えます。

そのため、避難所となっている小中学校の体育館のトイレ洋式化を図ります。また、停電・断水時にも電力供給できるよう、海上支所（海上公民館にも供給可能）に非常用電源設備を配置し、津波避難拠点施設を中心にカセットガス式発電機も設置します。

5 旭市災害公営住宅、新飯岡中学校及び統合保育所の整備

（１）旭市災害公営住宅

旭市災害公営住宅は、仮設住宅南側のいいおかふれあいスポーツ公園南側駐車場に建設します。

鉄筋コンクリート造の３階建てで、高齢者にも配慮してエレベータを併設します。戸数は１DK、２DK がそれぞれ １５戸、３DK が ３戸の全 ３３戸で、駐車場・駐輪場も整備します。平成 ２６年４月入居開始を目指します。

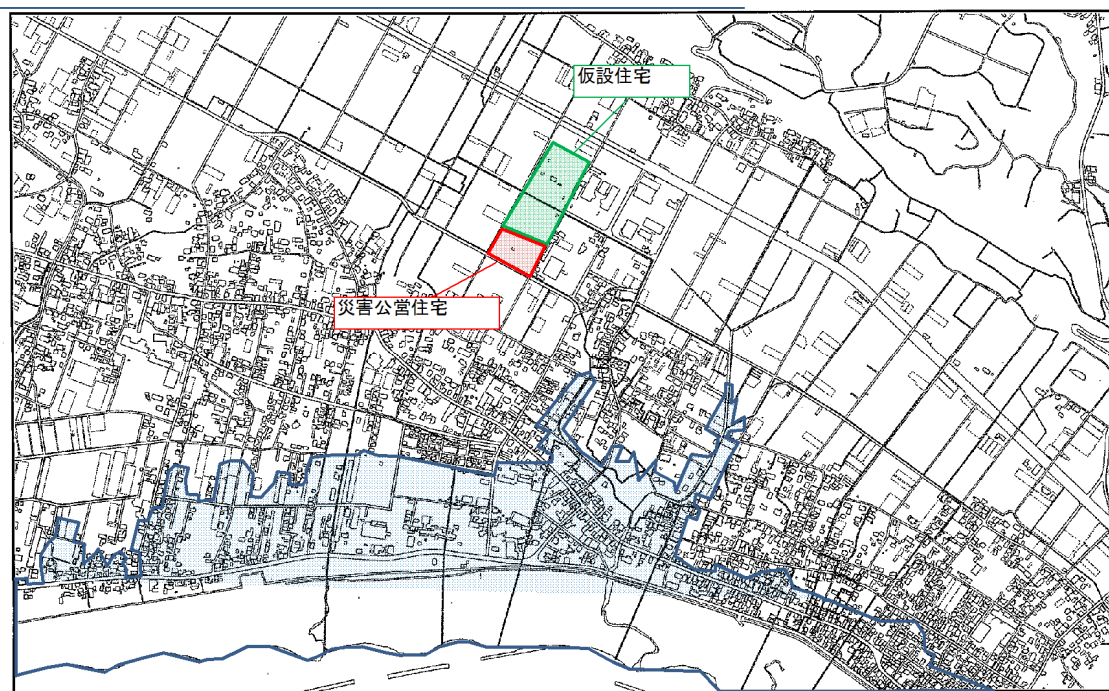


図 旭市災害公営住宅と仮設住宅位置

（２）新飯岡中学校

現飯岡中学校は、東日本大震災により被災したため、津波の心配がなく避難路が確保しやすい、いいおかふれあいスポーツ公園西側の飯岡西部地区土地改良事業による創設非農用地内に移設し、生徒の安全を確保します。敷地面積は約 36,000 ㎡で、鉄筋コンクリート造 2 階建の管理・普通教室棟と特別教室棟ならびに鉄筋コンクリート造 2 階建の屋内運動場を配置します。また、屋外には野球場・陸上トラック・テニスコートを配置し、駐車場及び駐輪場を整備します。

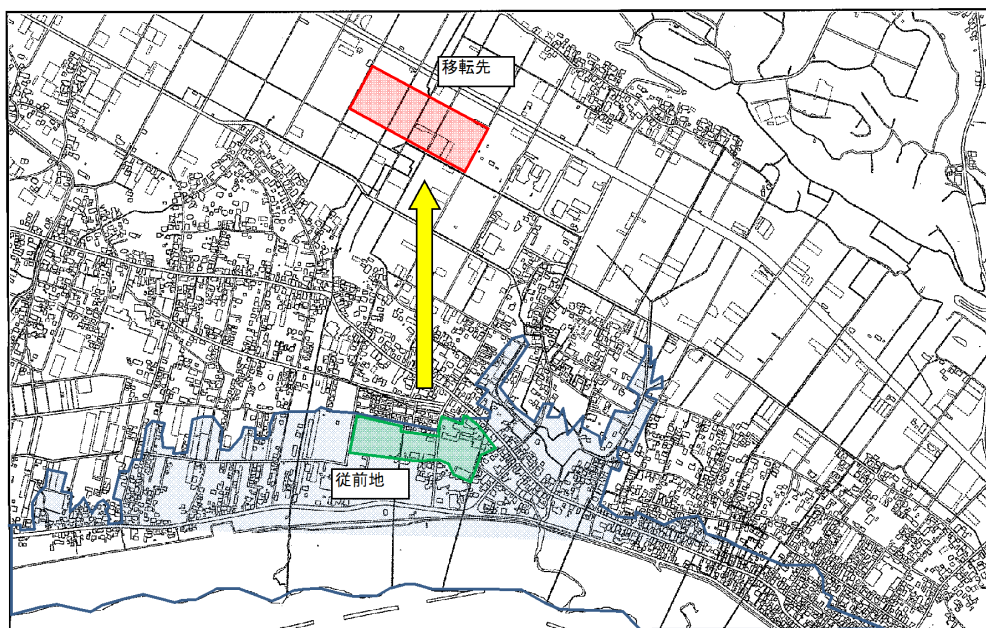


図 新飯岡中学校の配置位置

（３）統合保育所

飯岡地区に立地する 2 つの公立保育所を統廃合し、津波による浸水範囲から内陸側へ移転し、避難路が確保しやすい場所へ公立保育所を移転します。

統合保育所は、鉄筋コンクリート 2 階建とし、90～100 名の入所定員を確保します。通常の保育サービスに加え、特別保育事業の延長保育事業や一時預かり事業を実施するほか、東日本大震災時、「保育所入所児童等心のケア事業」の中心的機能として活躍をした、子育て支援センターを飯岡地区の新たな保育所に併設するなど、複合化や多機能化の推進を実施します。

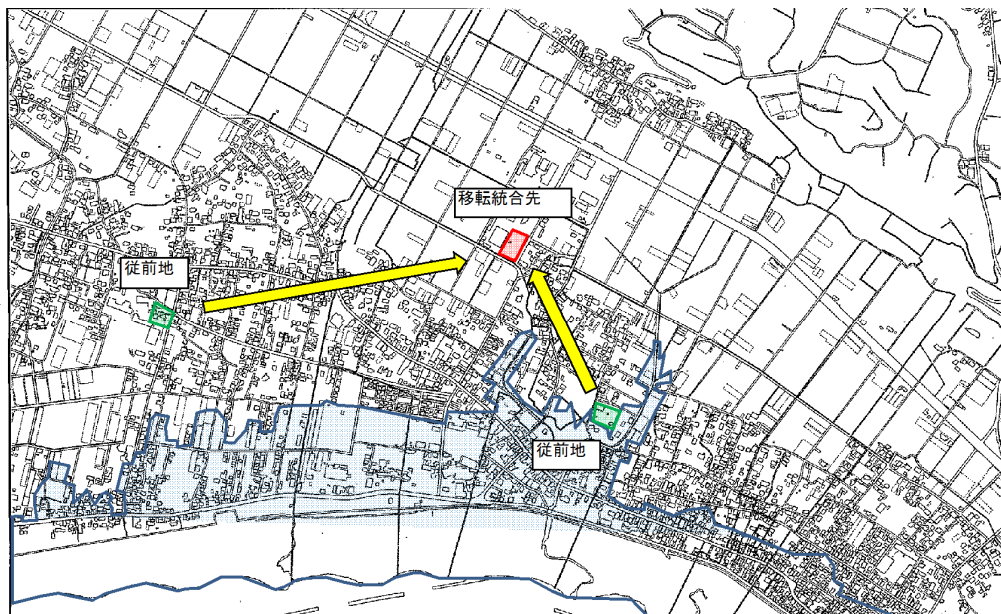


図 従前の保育所と統合保育所移転先の位置